

ヒダづくりに、毎夜毎夜寝押ししたりアイロンがけしたりして、大分苦勞なことを年配のお母さん方なら、おぼえていられることでしょうか。もともと平たい一枚の布地に、一本のヒダをつけるためには、一回や二回のアイロンがけでは駄目で、何回もくりかえしくりかえしやというほどアイロンがけをしなければなりません。そんなに努力してアイロンがけても、夕方学校から帰って来る頃には、ヒダのとれてしまった袋みたいなハカマにかわっていたという経験をお持ちでしょうか。

### 「しつけ」はスカートのヒダづくりと同じ

生まれてすぐの子どもの、丁度衣料品店から買って来た一枚の布みたいなもので全く自然のままに折目もシワもヒダもついていません。この布に、目的に応じて色々な折目やヒダをつけるのが家庭教育です。子どもにも一つのよい習慣をつくりあげるためには、一回や二回の訓練ではどうにもなりません。何回もくりかえしくりかえし、訓練(アイロンがけ)してどうやら一つのしつけが出来上がることでしよう。しかしそれとて、そのまま放って置くと、次第に折目がなくなつて、又もとのもくあみに返ってしまいます。これは先程のハカマのヒダの場合と全く同様です。どうしても毎日毎日努力して

ヒダの強化をしなければなりません。こうして、たゆみなく強化をくりかえしておきますと、或一定の期間がたてば、もうちょっとやそつとでは、ヒダはとれなくなりません。こうなった時、一つの習慣が確立したと心理学では申します。ここまですべて持っているのは本当に大変ですが、やらなければ子どものしつけは出来ません。私が前に親は努力しなければ家庭教育はできないといったのはこの意味です。

子どもが幼なれば幼いほど、しつけはしやすいといわれます。これは買いたての布地みたいで、布自体もやわらかいし、色々なシワやヨゴレがついていないからです。一度ヒダをつけた布に新しい型のヒダをつけたり、又ヒダを取り除いてもとの形にかえすということは、大変難しいし、たとえ出来上つても、新しい布でつくった洋服の様にキチンと出来ないものです。子どものしつけもそうで、子どもが成長して行くというのは、布地に色々なシワやヨゴレがつくのとよく似ています。特に放っておくと、悪い習慣が自然に出来上りますので、これを元にもどしてから、新しいしつけをしなればならぬようになります。これは親にとっては、大変な苦勞でしょう。ここで「鉄は熱いうちに鍛えよ」といった先人のコトバを思い出して下さい。二歳から五歳頃までの幼児をおもちのお母さん方は、特に、「きびしいしつけ」を早目に

### 親と子の「お話し合い」

親と子の「お話し合い」については、すでに前章でお話ししましたが、平素のふれ合いを土台として、親子の間で時々「お話し合い」をする事が大切だと思います。「話し合い」というコトバは今日あまりにも乱用されすぎているためになにか利害関係の対立したものの同志が、懐には刃をしのばせて、相手をやっつけるために行なうもの様な錯覚を一般にあたえます。これはとんでもないことで特に親と子の間では、利害関係の対立など、あるはずもないし、本当の意味での建設的な話し合いが出来るはずで、これは一般でいう「話し合い」ではなく「お話し合い」なのです。

最近、「家庭の日」というものが県単位で設定されまして、熊本県の場合は、毎月第一日曜日をもって「家庭の日」としておられます。そしてこの日は、出来るだけ両親も子どもも単独の行事を差しひかえて、家庭の中で家族中心なレクリエーションとか、その他の行事を行う様に指導されております。私の意見では、

この「家庭の日」を家族全部の「お話し合いの日」としたらどうかと思います。一カ月は三十日ですが、のこりの二十九日は、家庭内における親子のふれ合いだけで結構ですが、月に一日だけは、親子が集って建設的な話し合いをしたらどうでしょうか。勿論、家庭の事情によっては、月に二回やろうと三回やろうと、又無理して第一日曜日にやらなくても、適当な他の日に行なつても結構ですが、毎月一日だけは、「お話し合い」をやるという基本線だけは、絶対に守ってもらいたいと思います。

### 「家庭内にもきまりをつくる」

さて次に、「お話し合い」のやり方について具体的に説明してみよう。先ず「お話し合い」の目的をきめる事が大切です。勿論はっきりとした目的なしに、家族が色々な問題について自由に話し合うことも意味がありますが、普通には、「何のためにやるのか」という目標がほしいものです。一例をあげましょう。

子どもの家庭での勉強時間を、一日のうちどの何時頃もって来たらいいか、その時刻をきめるためのお話し合いといいたしましょう。ここで当然問題になるのは、テレビ番組です。これをどう調整したらよいかは、親にとって頭の痛いことです。親と子が全員の間に集つたら、お

子どもにしておくことが大切です。よくいわれますが、日本の家庭教育は、子どもが成長するにつれてきびしくなっていくが、外国の場合は正反対で、最初がきびしく次第にゆるめていくそうです。どちらがよいかは、先ほどのハカマやスカートのヒダづくりと比較してお考えになったら、自然と明かになりましょう。

シワくちやになりヨゴレがあちこちについた古ぼけたハカマやスカートに、アイロンがけしながら、「何んてこの布地は悪いでしょうね」とグチをこぼしていられるお母さん方はいらっしゃいませんか。子どものしつけには親の鋭い知性と強い意志がなければなりません。鋭い知性をみがくためには、親は親なりに勉強する事が大切です。読書やマスコミを通して、現在は色々な新しい知識が流入して来ますので、その中から自分のためになる知識を判別する力も必要です。と同時に、親は強くなければなりません。強いといっても、先ず自分自身に強くなければならないと思います。自分を克服して子どものためにがんばる親、そんな形の強い親になりたいものです。特に子どものしつけには前にも述べた様に、たゆみない親の努力がなければならぬと思います。

平素はやさしいけれども、ある時、ある事に関しては、非常に恐ろしいきびしいのテレビの上か何かに、はり出しておくのもよい方法だと思います。ひとたび、「きまり」がきまつたら、どの様なことがあつても、これを守らせる様に、親は監視し注意をあたえねばなりません。戦争前の封建的な親の厳格さと、今日の民主的親の厳格さとは、根本的に異なるものがあります。前者は、親が勝手に決めた「きまり」を子どもに強制する態度ですが、後者は、親子全部で話し合つた末、子ども自身により決定させるときまりを子どもに守らせる様にきびしく監視する態度です。この点がまだ誤解されている向きが多く、きびしい態度はすべて封建的だと簡単に考えている人がある様ですが、とんでもない間違いです。

### 「きびしい」

#### 家庭の民主主義

きまりを守らせるための親の態度や方法は叱責や罰のみに頼るのでは上等とは申せません。たえず注意をあたえ、時には激励賞讃してやる事が大切です。叱責と注意の異なる点は、前者は親が自分自身のために行なうものであるのに対して、後者は、子ども自身のためを思つてやることなのです。自分がムシヤクムシヤするからといって、子どもにあたり散らす親は最低の親だといわれます。子どもは将来のために、今はひどく叱っておか

い親のイメージが、すべての家庭の子どもの心に浮ぶ様になった時、家庭教育は一つの成功といえるでしょう。

なくてはいけないという気持ちで、子どもを叱るのは、むしろ注意に近い叱責であつて、大変立派なことです。わが子を他人にめいわくをかけない人間に育てる事は、どの親でも一つの教育の目標だと思います。例えば、「子どもの火遊び」が如何に他人にめいわくをかける行為であるかは、今更とやかくいう必要はありません。だから子どもが火遊びをやっているのをみた親が、子どもをなぐつたとしても、その行為は決して、野バンとか専制的とはいえないでしよう。むしろ立派な教育的行為の一つだと思ひます。

世の中には、ただ機械的に、「子どもは打つな、叱るな、出来るだけほめて育てよ」という人がありますが、私は原則的にはその意見に賛成ですが、個々のケースとしてみた場合は、子どもをなぐる事も、必要な場合もきつとあるものと信じています。少くとも、平素のふれ合いの十分な親子の間ならば、時に親から一発かまされても、叱りとばされても、子どもにとっては反省こそすれ、反抗心は生じないと思ひます。

「きまり」を自分でつくつて、その「きまり」をきびしく守る生活態度を身につけさせることが何よりも民主的家庭教育法と申せましょう。そのために、家庭内に月に少くとも一回は、親子のお話し合いの機会をもうけましょう。「家庭の日」をわざわざもうけた意味もその辺にあると思ひます。(熊本大学教授)